

疫学講座の紹介

指導責任者 教授 横道 洋司

スタッフ 准教授 三宅 邦夫

当講座では、疫学研究を行っています。疫学研究では実験室での実験はせず、患者さんや今は健康な人から病気や生活習慣、受けている治療についてのデータを頂き、それをコンピュータプログラムで分析し、結果を図表にまとめて学会や論文雑誌で発表しています。これにより病気を予防する方法、再発させないための方法や、病気になった後の最良の治療法を理解できるようになります。医学は常に進歩していますから、患者さんが受ける治療、病気になった後の経過は時代とともに変わります。いつでも新しい研究テーマと発見があるのが、疫学研究をする魅力のひとつです。



疫学研究の種となる研究アイデアは、普段生活する中で疑問に思うことで構いません。多くの人が抱く疑問をデータ分析により解くと、それは大きな成果になります。学会に参加して、臨床上解かれるべき研究アイデアを貰ってくるのも良いでしょう。研究アイデアが決まったら、小児・中年・高齢者に関するデータの分析に入ります。アイデアの想起からデータ分析、論文にまとめて発表するのは結構大変な作業です。しかしそれをやり遂げた際には大きな達成感を味わうことになるでしょう。疫学研究の成果は、時に臨床医の先生が使う診療ガイドラインのエビデンス（根拠になる論文）となります。ガイドラインの根拠として採用されないまでも、たくさんの疫学研究・基礎医学研究の成果が積み上がることによって、医学の常識はできあがります。

当講座に入れば、研究をする必要から R や SAS といったプログラム言語を学ぶことになります。パソコンでの作業や、物事をこつこつと探求することが苦にならない方は向いているかもしれません。統計やプログラミングが初めての方、数学が苦手な方でも大丈夫です。基礎から一緒に学べます。学生時代に疫学研究をした経験は、医師になり、自分が行う医療行為のエビデンスを探し、理解する際に役立つでしょう。研究に興味が出てきたら、卒業後に大学院で疫学を深めるのも良いでしょう。疫学者を目指す道もあります。一緒に疫学研究をしてみたい方は、ぜひ連絡をください。

連絡先：横道 (hyokomichi@yamanashi.ac.jp)